



都会から一番近い  
プチ田舎



# 小平「まち巡り」

ガイドブック







# ホツとひと息、つけるまず。

小平は、その名のとおりの起伏が少ない平たんなまち。都会の喧騒から少し離れた多摩地域にあります。江戸時代に飲み水を運ぶ玉川上水が開通すると、そこから用水を引いて新田を開発、江戸の近郊農村として歩みははじめました。

村の繁栄を願って建てられた寺や神社、いまも続くお祭りやお囃子、

自然に触れながら兩岸を歩ける玉川上水。そうした何気ない、のどかな日常風景が、ホツとひと息つけるまちの宝物です。

『小平「まち巡り」ガイドブック』は、小平をゆったりと楽しめるように

歩いて巡ることをオススメするガイドブックです。

各施設は、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮するため、開館日および開館時間などを変更する場合があります。必ず各施設のホームページなどをご確認ください。ご利用をお願いします。

## もくじ

WELCOME TO KODAIRA..... 2

### グリーンロード

玉川上水・用水エリア..... 4

上水と用水のまち小平 水に親しむ・水と遊ぶ..... 6

オーナーこだわりの庭 小平オープンガーデン..... 7

玉川上水・用水 活用の方法と技..... 8

小平の彫刻家 平樹田中..... 10

狭山・境緑道エリア..... 11

小平の彫刻家 齋藤素蔵..... 12

野火止用水エリア..... 14

小平グリーンロードの自然..... 16

小平ぶらいど 農産物..... 18

### 青梅街道

新田エリア..... 20

小平今昔 昔のくらしを体感..... 22

小川エリア..... 24

こうしてできた七つの村..... 26

小金井街道・新小金井街道

花小金井・小金井公園エリア..... 32

小平ぶらいど ミュージアム..... 34

小平ぶらいど 学園都市..... 36

こだいら観光まちづくり協会主催 ガイドツアー..... 38

実は平らじゃないって本当？ 小平の窪地ものがたり..... 40

小平まち巡りガイドコース..... 42

小平のイベント・お祭り..... 44

小平市のちず..... 46

施設の連絡先／小平へのアクセス..... 48

# 都会から一番近い プチ田舎

小平市は、東京都心から西に 26km、新宿から電車で 30 分ほどのアクセスしやすい多摩地域にあります。  
「小平グリーンロード」と呼ばれる 3 つの緑道に囲まれた自然豊かなプチ田舎です。









玉川上水

四季折々の自然の中を  
のんびりお散歩、  
ゆったり歴史探訪。  
都会から一番近いプチ田舎で  
豊かな時間を  
過ごしませんか？



森田オープンガーデン

＊小平グリーンロード：

平成 16 年「美しい日本の歩きたくなる みち 500 選」に選定  
平成 27 年「新日本歩く道紀行 100 選」水辺の道」に認定

## まちを囲む豊かな自然

小平の魅力といえば、なんと言っても水と緑。  
「小平グリーンロード」は、玉川上水、野火止  
用水、狭山・境緑道、都立小金井公園を結ぶ、  
小平をぐるりと一周する約21キロメートルの  
緑道です。散歩したり、親水エリアで生き物  
を探したり、オーナーこだわりのオープンガー  
デンを堪能するなど、都心から少し離れたただ  
けで、さまざまなかたちで自然と親しめます。



狭山・境緑道



## 水が育んだ歴史と景観

小平では、旧石器時代の遺跡「鈴木遺跡」の発見により、かつては水が湧き出していた時代もあったことがわかっています。その後は「逃げ水の里」と呼ばれるほど水が乏しく、荒れ果てていた時代もありましたが、江戸時代には玉川上水や野火止用水ができ、そこから水を引き込むことで、人びとが暮らせるようになりました。そうした時代の変遷をいまに伝える短冊状の農地や用水、寺社、石碑など、江戸時代になされた新田開発の史跡探訪が魅力です。



小川寺を流れる小川用水



小平ふるさと村



齋藤素庵・彫刻の小径



ガスミュージアム



小平グリーンロード灯りまつり



ブルーベリー

ぶるペー  
(小平市シンボルキャラクター)



小平には、小平ふるさと村、ふれあい下水道館、多摩六都科学館（西東京市）などの公営施設、またブリヂストンや東京ガスなどの企業から大学付属のミュージアムまで、ユニークで楽しい文化施設がたくさんあります。また、四季折々のお祭りやイベントはもちろん、長い歴史をもつ小平の糧うどんや、栽培発祥の地である小平名産のブルーベリーなど、五感が喜ぶさまざまな体験が楽しめます。



小平市民まつり

## 五感で楽しめる文化

水と緑を満喫、ゆつたりと時間を過ごす

## グリーンロード 玉川上水・用水エリア

このエリアの魅力は、小平を約8キロメートルに渡って横断する玉川上水と自然豊かな緑道です。玉川上水には、水と親しむことができる親水エリアが点在し、緑道沿いはケヤキやクヌギ、コナラ、そして季節の花や実をつけた草木がいっぱい。バードウォッチングや昆虫採集も楽しめます。また、玉川上水沿いには、市民が庭を開放している「オープンガーデン」も。さまざまに自然を楽しめる小平を代表するオススメのエリアです。



玉川上水緑道



一橋大学



小平市平櫛田中彫刻美術館



オープンガーデン  
柴山さん

一橋大学  
→ P.36

小平市平櫛田中彫刻美術館  
→ P.10



A 小金井（サクラ）

玉川上水沿いには、江戸時代から桜の名所として親しまれ、国の名勝にも指定されている桜並木が、小金井橋を中心に東西約6km続いています。

小金井（サクラ）

喜平橋





森田オープンガーデン



中央公園 こだいらフォトコンテスト銀賞



うさぎはしの親水エリア



上水と用水のまち小平

## 水に親しむ・水と遊ぶ

玉川上水沿いには「じょうすいこぼし」や「うさぎはし」などの親水エリア、また散歩の途中で気軽に寄れる「こもれびの足湯」など、自然のなかで水と親しめるスポットがたくさんあります。水が流れる様子を眺めながら、ゆったりとした贅沢な時間が過ごせます。

### M じょうすいこぼし



緑道の階段を下りていくと、玉川上水の水際まで近づき、清流に触れることができます。

### E うさぎはし



気軽に水と遊ぶことができる子どもたちに人気のスポット。小平市立中央公園の南側にあります。

### L こもれびの足湯



玉川上水沿いの無料の足湯。衛生組合内にある地下250mの井戸から汲み上げた天然水を、ゴミ焼却炉の余熱で温めています。

営業時間：9時30分～16時30分(3月～9月)

9時30分～16時00分(10月～2月)

休みの日：毎週木曜日(祝日の場合は次の平日)

12月29日から1月3日。焼却施設点検日。

入場料： 無料



うさぎはしの親水エリア





## オーナーこだわりの庭 小平オープンガーデン

小平市が推奨しているオープンガーデンは、個人の庭を一般公開する市民活動です。オーナーが丹精を込めてつくった庭や花壇を開放し、季節の花や草木を楽しんでもらいながら、訪れた人たちと交流を深めています。なかには自家製のハーブティーやお菓子を販売するお宅もあり、個性豊かなオープンガーデンめぐりが楽しめます。

### ① 森田オープンガーデン



森田さんのオープンガーデンでは、チューリップやヒマワリ、クリスマスローズなど、四季折々の草花が楽しめます。4月末から5月末にかけては庭一面にカモミールが咲き誇り、庭を眺めながらティータイムを満喫できます。



### ③ 柴山さん



柴山さんの庭は、大きな木々に囲まれ、和と洋の組み合わせが特徴です。色とりどりの花々を通年楽しめますが、3月中旬から4月にかけてがオススメです。

### ⑤ 浅見さん



浅見さんは約280種のバラを育てています。バラの開花に合わせた5月に庭を公開しています。最盛期を迎えたゴールデンウィークごろがオススメです。



森田オープンガーデン

### ⑥ 佐久間さん



佐久間さんの庭では、バラ、クレマチス、宿根草、種から育てた一年草が咲き誇ります。公開の時期は5月の中旬から下旬ごろ。敷地の外からお楽しみください。

### K CAFE CAFE



雑木林のなかにあるオープンテラスカフェ。オリジナルの美味しいコーヒーやスイーツを提供しています。

営業日：月・火・木・金・第3土曜  
営業時間：10時～16時(4月～10月)  
10時～15時(11月～3月)  
10時～14時30分(第3土曜日)  
※日曜・祝日・雨天時は休業です

### 『小平グリーンロード&オープンガーデンマップ』

小平には、ほかにもたくさんのオープンガーデンがあります。楽しみ方や公開時期などは、ホームページでご確認ください。



## 活用する方法と技！

「逃げ水の里」と呼ばれるほど水に乏しい荒野だった小平。当時、江戸の人口が急増し、飲料水不足になったことから、1653年に町人の庄右衛門・清右衛門（玉川兄弟）が玉川上水を完成させました。その後、村を開拓した人びとは、用水を掘り、水を行き渡らせ、各家や農地で活用しました。こうした用水は、現在、親水エリアおよび緑道として整備されているほか、当時の水との関わりが残る場所としてガイドツアーなどで紹介されています。

### 現在の用水

用水は短冊状の各農地を横断するように引かれました。現在も農家の敷地を縫うように流れ、寺や神社の境内ほか、道路脇などで見ることができます。



小川寺を流れる小川用水



あじさいの小径



### 小島水車回し堀跡

直径720cm、幅84cmの大きな水車でした。現在は、<sup>せき</sup>堰跡、回し堀の築樋（「つきどい」または「ちくひ」と読む）跡などが残っています。「回し堀」とは、本流の取水口から水車まで土堤（築樋）を築き、取水口で水位を上げ、土堤の勾配を本流の勾配より小さくして落差を得るタイプの水路のこと。排水方式は胎内掘り（ほっこ抜き）。



取水口堰跡



小島水車回し築樋跡

### G 小島水車回し堀跡

「小島水車」は、1874年に小川弥次郎兵衛が新堀用水に設置し、1906年に小島啓助が買い受け、1965年ごろまで稼働していました。

**水力で穀物を挽く【水車】**  
1764年に、小川弥四（次）郎によって小川村で最初の水車が用水に設置されました。当時の農作物は、主に小麦・ひえ・そば・陸稲であったため、水車を使い精白や製粉をしていました。

## 船で物を運ぶ【船溜り】

開拓が進んだ1870年、多摩の物産を江戸に運ぶために玉川上水での通船許可がおりました。最盛期には一日百隻もの船が行き交い、羽村から四谷大木戸までに32カ所の「ふなだま船溜り」（船着場）ができました。しかし、上水の汚濁を理由に通船はわずか2年で禁止され、船溜りも埋め立てられました。

### D 船溜り（船着場）跡

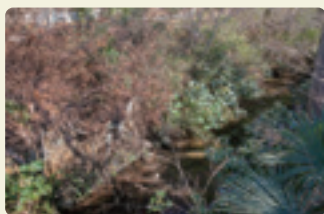
市内の船溜りは、小川橋・久右衛門橋・喜平橋・茜屋橋・小金井橋の付近にありました。小川橋と久右衛門橋には、今でも船溜りの凹みが確認できます。



ふなだま船溜り（船着場）想像図



小川橋の船溜り（船着場）跡



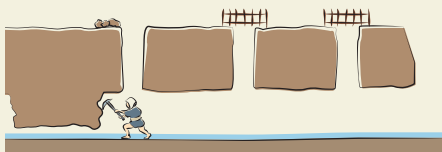
久右衛門橋の船溜り（船着場）跡

## 用水を掘る【胎内堀】

「胎内堀」は、「たぬき堀」「ほっこぬき」とも言い、トンネル型の地下水路のことです。この辺りの赤土は、水分を含むと粘り気が出るため、掘ったままでも崩れ落ちることはないそうです。掘り初めや掘った土を地上に運び出すための堅穴が必要で、約60カ所の堅穴があったと言われています。

### J 新堀用水胎内堀流出口

用水は幅が狭いため、開削で深く掘るよりもトンネルの方が、費用・労力・危険性を少なくすることができます。途中約60カ所に堅穴を掘り、作業の出入りと土の出口として利用しました。



現在の胎内堀出口部分（保全工事後）





小平の彫刻家

## 平櫛田中（ひらくしでんちゅう）

平櫛田中は、長年住み暮した東京都台東区から小平市に転居し、1979年に107歳で亡くなるまでの約10年間で小平で過ごしました。100歳をこえてからも現役の彫刻家として活躍し続け「六十七十ははなたれこぞう おとこざかりは百から百から」「いまやらねばいつできる。わしがやらねばたれがやる。」などの名言を残しました。

### B 小平市平櫛田中彫刻美術館



平櫛田中の作品を保存・展示している美術館。美術館には、99歳から晩年まで田中が過ごした自宅が残され一部は見学もできます。国立能楽堂を建築した大江宏氏による設計・建築で、美しく整えられた庭園を望む純和風建築となっています。春と秋にはお茶会も催されています。

開館時間：10時00分～16時00分（なるべく15時30分までに入館してください）  
休館日： 火曜日（ただし、祝日の場合はその翌日）  
入館料： 一般 300円（20名以上の団体 220円）  
小・中学生 150円（20名以上の団体 110円）

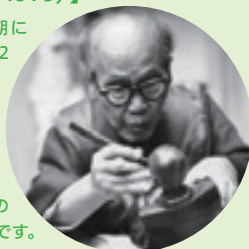
### 鏡獅子

1937年、歌舞伎座で6代目尾上菊五郎の鏡獅子が上演されたとき、田中は25日間も通い続け観察を重ねてポーズを決定しました。幾多の苦心と曲折を経て22年をかけて完成した高さ2mの像は、現在、国立劇場正面ホールに展示されています（本作品は58cm）。



### 【平櫛田中（1872～1979）】

岡山県生まれ。少年期に木彫に興味をもち、22歳で木彫を志し大阪の人形師・中谷省古（せいこ）に弟子入り。岡倉天心や西山禾山の影響を受け、中国の故事などを題材に数々の作品を発表した彫刻家です。



小平市  
平櫛田中  
彫刻美術館  
HP



2020年公開  
作品 3Dビューア  
（高精細画像）  
こだいらデジタルアーカイブ



【360度動画】  
【VR体験】  
記念館探検  
こだいら鏡光まちづくり協会

「鏡獅子」です。かけて完成したのが、生涯の大作

転生（てんしょう）  
「生ぬるい人間を喰った鬼が、あまりのまずさに吐き出してしまう」という田中が幼少の頃に聞いた、故郷に伝わる話を思い出してつくられました。

### 平櫛田中の芸術

田中芸術の特徴は、優れた写真力と深い精神性、彩色にあると言われています。日常や身近な人物を題材とした初期の作品からは、作者の人間性が感じられます。その後、臨済禅の西山禾山（かきさん）の影響を強く受け、内面を表出した精神的な作品を数多く制作しました。また、岡倉天心と出会い、彫刻のうちに「理想」を表現するとい

う田中芸術の真髄を体得しました。やがて数々の名作「烏有先生」（てんしゅう）など、個性的な作品が誕生します。そして、田中芸術のすべてを結集し、20年余りの歳月をかけて完成したのが、生涯の大作





見どころ満載、散歩におすすめ

## グリーンロード 狭山・境緑道エリア

多摩湖サイクリングロードの一部でもある狭山・境緑道は、桜色に染まる春は言わずもがな、新緑や紅葉の時期など四季を通じてオススメ。通勤や通学など日常の往来のほか、サイクリングやランニング、犬との散歩など余暇を楽しむ人でもいつも賑わっています。東の方では、石神井川の上に水道道路をクロスさせるために築いた土手が、馬の背のようになっています。小高い馬の背からの眺めは、季節を問わず楽しめます。



狭山・境緑道



C 小平霊園

多くの政治家や著名な文化人が眠る、静かで緑豊かな公営の霊園です。敷地の半分は公園になっていて、ソメイヨシノ、リギダマツなどの並木が有名です。



ガスミュージアム ▶ P. 34



馬の背



B あじさい公園

窪んだ地形の敷地いっぱいにアジサイが植えられています。最盛期の6月にはあじさいまつりが開催されます。公園内の池ではオタマジャクシが見つかることも。



大沼田用水



石神井川上流端

石神井川上流端

馬の背

めがね橋

## 小平の彫刻家

### 齋藤素巖（さいとうそがん）

小平市ゆかりの彫刻家として知られる素巖は、亡くなるまでの31年間を学園東町で過ごしました。ご遺族から寄贈された240点を超える石こう原型は小平市が保存し、铸造したブロンズ作品を市内に設置しています。そのなかの16基17作品は、グリーンロードの小平駅から花小金井駅間にある「齋藤素巖・彫刻の小径」に展示されています。また、「グリーンロードや小径沿いの公園は桜の名所。作品とともに道ゆく人の目を楽しませています」。

#### 【齋藤素巖（1889～1974）】

東京都（市ヶ谷）生まれ。戦中・戦後期にかけて活躍。数々の受賞を重ねた日本近代を代表する彫刻家。「彫刻と建築との融合」を目的として結成した彫刻の在野団体「構造社」を設立し、「彫刻の社会化」を目指したと言われています。



「カバ」

小径には、かわいい作品もあれば、ユーモラスなポーズの作品もあります。あじさい公園にある「農業」と「交通」は、日本橋の兜町株式取引所ビルに設置された代表作「商業・農業・工業・交通」の一部です。野外彫刻は触ってよいので、かたちを味わいながら鑑賞を楽しんでみてはいかがでしょうか。





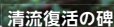
たけのこ公園の作品「エゴイスト」



## 野火止用水エリア

まちに溶け込んだ用水沿いを探索

野火止用水は、立川市から埼玉県新座市の平林寺を経て、志木市の新河岸川に至る全長約24キロメートルの用水路です。「知恵伊豆」と呼ばれた老中・松平伊豆守信綱によって開削されたため、「伊豆殿堀」とも呼ばれています。樹林地「野火止緑地」など、野火止用水沿いには水と緑が楽しめる場所がたくさん残っています。



**G** 彫刻の谷緑道



八坂駅の南側に7差路があります。かつては鎌倉街道や江戸街道など、9本の道が交わっていたことから「九道の辻」と呼ばれています。



明治20年代に建てられた洋館を、1965年に記念館として移転・改修しました。もとは港区白金台の明治学院構内で宣教師の住居として使われていたそうです。

ブリヂストンイノベーションギャラリー ← P. 35





F 青梅橋



御嶽山道中記「御嶽菅笠」 青梅橋図



青梅橋 庚申塔

昔から交通の要衝であったこの地には、庚申塔がたてられ、それを守るかのようにイチヨウが植えられ、大木に成長しました。右が庚申塔、左は橋の名が刻まれた石欄干(親柱)です。

野火止用水ができた1655年に、青梅街道が用水を横断できるよう橋が架けられました。東村山浄水場の開設にともない、このあたりの野火止用水は暗渠となったために橋はなくなり、青梅橋という名前だけが残りました。左図は江戸時代の青梅橋の状況を表わした史料「御嶽菅笠」です。



E ほたる育成の緑道

ほたる育成の緑道は整備された遊歩道です。ホタルが育成され、小魚やザリガニ捕りなど子どもたちの遊び場になっています。野火止用水放流口あたりから先は、土に覆われた「野火止緑地」となります。



C 用水工夫像

1655年、野火止用水は、用水工夫らによって、約24kmを40日間で掘り通させたと言われています。この用水のおかげで、周辺の田畑の開拓が進み、米の取れ高は10倍にもなったそうです。



D 野火止緑地

野火止用水沿いに広がる雑木林には、クヌギ、エゴノキ、コナラ、イチヨウなどが生い茂り、四季折々の自然が楽しめます。野鳥の声が心地よい散歩道です。



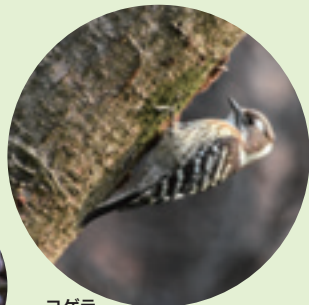


**ミミガタテンナンショウ**  
[耳形天南星]

筒状の花びらのように見える  
仏炎苞(ぶつえんほう)のふ  
ちが、耳たぶのように張り出  
していることからこの名が付  
きました。



**ウグイスカグラ** [鶯神楽]  
ウグイスがこの木の枝から枝  
へ舞い飛ぶ姿が神楽を舞っ  
ているように見えるのが名前の  
由来です。



**コゲラ**  
小平市の鳥コゲラは、日本で一  
番小さなキツツキ。「ギイー ギ  
イー」と鳴き、コンコンと木  
をつつく音が聞こえたら、コゲ  
ラがいるかもしれません。



**タチツボスミレ**  
[立坪堇]



**フデリンドウ** [筆竜胆]  
名前の由来は、花の閉じた状  
態が筆の穂先に似ているか  
ら。約5cmと小さい背丈です。



**シュラン** [春蘭]  
アマナやカタクリなどとともに、  
春の一瞬だけ姿を現わす  
ことから「スプリング・エフェ  
メラル(春の妖精)」と呼ばれ  
ます。



**アマナ** [甘菜]  
球根や葉が甘くて食べられる  
からこの名前が付けました。



**ネムノキ** [合歓の木]  
夏に刷毛状のピンクの花が  
咲きます。夜になると葉を自  
分で閉じる様子が、まるで眠  
るようなので、この名が付き  
ました。



**エゴツクビオ** [シブミ  
のゆりかご]  
枝に吊り下がる「落とし文」。  
エゴツクビオシブミは、  
成虫になるまでこの中で育ち  
ます。



**エゴノキ**  
果実をかじるとエグ味を感じ  
ることが名の由来です。果皮  
に毒性があり、果実をすりつぶ  
して水に流す漁法もあります。



**アオシジャゲハ**



**ヤマユリ** [山百合]  
大きな白い花からよい匂いが  
漂います。球根は食用のユリ  
根になります。



**キツネノカミソリ**  
[狐の剃刀]



**ノコソウ** [野萱草]



名前が黒文字の生き物は  
四季を通じて観察できます。



**ネジバナ** [振花]  
その名のとおり、ねじり巻い  
ていますが、右巻き、左巻き、  
たまに巻いていないものもあ  
るそうです。



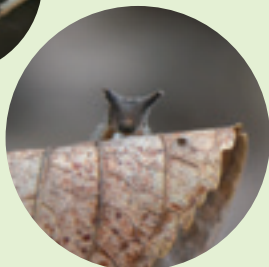
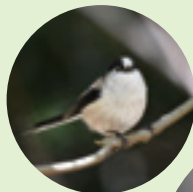
ダイサギ



多くの実は秋になり、鳥に食べられますが、残っている実は冬にも見ることができます。葉が落ち見通しがよくなる冬は、残っている実や鳥が見つつけやすくなります。



エナガ

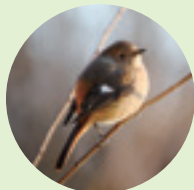


ゴマダラチョウの幼虫

秋から冬、幼虫はエノキの木の根のあたりで落ち葉にくっついて越冬します。



ムラサキシキブ【紫式部】



ジョウビタキ



マユミ【真弓】

木の質が緻密で粘りがあり、古くはマユミの木で弓をつくったことから「真弓」と呼ばれるようになりました。



ノイバラ【野薔薇】



クサギ【臭木】

葉を摘むと独特な匂いがあるためこの名が付けました。秋に熟す果実は、あざぎ色や濃紺のものなどがあります。



センニンソウ【仙人掌】

秋に白い花が咲き(左)、その後葉が茶褐色に変わります。果実に生える綿毛(右)を仙人のヒゲに見立ててこの名が付けられました。



ヤブラン【藪蘭】

秋に花が咲き、その後に黒紫色の実をたくさん付けます。



ヤマガラ

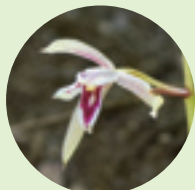


カルガモ



ノブドウ【野葡萄】

青や赤紫のカラフルな実がおいそうですが、生食には向きません。



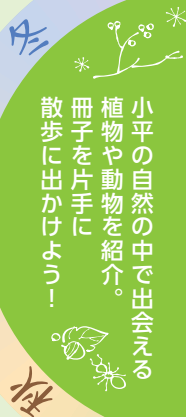
マヤラン【摩耶蘭】

葉と根を持たず、光合成をしません。共生する菌から栄養と水をもらって成長する絶滅危惧種です。



ハグロトンボ

「神様トンボ」とも呼ばれます。



小平の自然の中で出会える植物や動物を紹介。冊子を片手に散歩に出かけよう！





ブルーベリー摘み取り農園（島村ブルーベリー園） こだいらフードコンテスト金賞

小平ぷらいど



## 農産物

小平では、住宅街の隣にのどかな農園が広がり、都市農業の利点である地産地消も進んでいます。多種多様な野菜や果物が栽培され、特に日本ではじめて栽培が始まった地として、ブルーベリーが有名です。身近に農地があることで、農産物直売所では新鮮な野菜が手に入ります。

### 国内初のブルーベリー栽培地

「日本のブルーベリーの父」と呼ばれる岩垣駿夫博士が、日本ではじめてブルーベリーをアメリカから取り寄せ、栽培に情熱をかけました。実家が農家だった教え子の島村速雄さんが、1968年に自宅農園で農産物として栽培をスタート。それが花小金井南町の「島村ブルーベリー園」です。花小金井駅には記念碑が立てられ、いまでは小平イチオシのフルーツになりました。



JA東京むさし  
農園マップ



ブルーベリーは、初夏に花を咲かせ、夏に実がなります。誰でも体験できる摘み取り農園は、JAのHPでご確認ください。





小平の農園



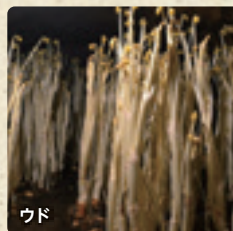
ナシ



ブドウ



キウイ



ウド

#### 小平の農産物

小平では約 60 種類もの野菜が栽培され、都内有数のウドの生産地でもあります。果物は主にナシ、ブルーベリー、ブドウのほか、小平生まれのキウイフルーツ「東京ゴールド」などが生産されています。



直売所 (久保園)



ムーちゃん広場



『こだいら 直売所マップ』



#### 小平糰うどん

昔は水が乏しく田がほとんどなかった小平では、お正月やお盆などに収穫した地粉で手打うどんを打ち、畑で採れた野菜を茹でたものを添えて食べる習慣がありました。小平ふるさと村では、武蔵野手打うどん保存普及会による、小平産の地粉を使った名物「小平糰うどん」が食べられます。毎週土曜・日曜・祝日の昼食時 1日 50 食限定 (1食 500 円)。

#### 農産物直売所

農園の小さな直売所から、JA 東京むさしが運営する地域最大級の直売所「小平ファーマーズ・マーケット ムーちゃん広場」まで、市内には約 200 軒の直売所があります。毎朝採れたてを並べ、売れ残りはその日のうちに回収するから新鮮！「採れたてのおいしさを届けたい」と、出荷する農家さんやお客さんでいつも活気に溢れています。



江戸の村に思いを馳せながら街道を行く

## 青梅街道 新田エリア

青梅街道は、青梅から江戸に石灰などを運ぶためにつくられた道です。小平を通る青梅街道の東側エリアは、小川村（市西部）の開拓後、約70年後の享保の改革によって開発され、新田村として発展してきたエリアです。



開拓当初の復元住居

小平ふるさと村にある、江戸時代初期の農民住居の建物。当時と同じ工法や、材料を使って復元されました。







ルネこだいらで、ひと際目立つ、高さ2.8mの日本一大きい丸ポスト。小平は全国でも有数の丸ポストが多い自治体で、市内には37本の丸ポストが残っています。



コンサートや演劇などのイベントが行われている、小平市の市民文化会館です。1,229人を収容できる大ホールをはじめ、レセプションホールや会議室などが備えられています。



B 陣屋門

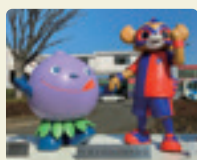
名主・當麻家の陣屋門は、「ちぶさ門」と呼ばれ、馬に乗ったまま通ることができるほどの高さがあり、代官屋敷の門に匹敵するほどのめずらしい史跡です。



JA東京むさしが運営する農畜産物の直売所です。小平で生産された新鮮な野菜や果物などが並んでいます。

営業時間：9時00分～17時00分  
定休日：なし(3月・9月の最終平日は休み、夏季休業、年末年始は休業)

F ムーちゃん広場



小平に練習グラウンドがあるFC東京の創設20周年を記念して、FC東京のチームマスコット「東京ドロロンバ」と市のシンボルキャラクター「ふるべー」がコラボレーションしたモニュメントを制作し設置しました。

C ぶるべー・東京ドロロンバのモニュメント

ぶるべー・東京ドロロンバのモニュメント

陣屋門

B

小平駅

C

D ルネこだいら

あかしあ通り

E なかまちテラス

A 庚申塔



文字庚申(普通は青面金剛)に三猿が彫刻された珍しいもので、多くの寄進者の苗字が刻まれ、当時の百姓が苗字を名乗っていたことを示す貴重な資料となっています。

A

庚申塔

熊野宮

熊野宮

E なかまちテラス



建築家・妹島和世氏の設計による公民館と図書館が備わった生涯学習施設。陽の光が明るく差し込む施設内には、オシャレなカフェも併設されています。

小川用水(北)

小川用水(南)

たから道

平安院

平安院

こだいら観光まちづくり協会

馬継ぎ場跡

P.24

ムーちゃん広場

P.19

青梅街道駅

小平市中央図書館

小平市役所

小平今昔

昔のくらしを体感



旧神山家住宅主屋



1949(昭和24)年当時の小平小川郵便局舎(上)  
現在は旧小平小川郵便局舎として残る(下)

来た人を迎えるのは、赤茶色の屋根の「旧小平小川郵便局舎」。1908年に建てられ、国内に現存する郵便局舎の中でも、古いものの1つ。また昭和初期には電話交換業務も行っていました。園内には、ほかに「旧小川家住宅玄関棟」、江戸時代後期の「旧神山家住宅主屋」「旧鈴木家住宅穀櫃」などが展示されています。



小平ふるさと村は、江戸初期から中期、江戸後期、明治以降と、時代を追って3つのゾーンを見学できるようになっています。また、年中行事の再現や各種イベント、企画展示などを行っています。昔の建物や暮らしを体感したい人はぜひ！

施設の情報



開園時間:

午前10時00分～

午後4時00分

休園日:

●月曜日及び第3火曜日

(祝・祭日に当たるときは、翌日) ●祝・祭日の

翌日(土・日曜日に当たるときは、開園) ●年末

年始(12月27日～翌年

1月5日まで)

入場料: 無料



水車小屋



# 小平の移り変わり 街道と橋



## 青梅街道(成木街道)

1603年に江戸幕府が開かれると、江戸城の築城工事が進み、城壁に使用する漆喰(しっくい)の原料となる石灰を青梅の山から運ぶためにつくられた道が「青梅街道」です。石灰は馬で運ばれ、街道には馬継ぎ場もありました。

右上は、テルメ小川付近。

いずれも1949年撮影。



名主の小川家前に出荷する大根が並べられています。



車を通る街道ですが、子どもたちの遊び場でもありました。



## 五日市街道(伊奈道)

右は1949年の喜平橋付近。「五日市街道」は、五日市の近くの伊奈に石工が多く住んでいて江戸城の築城に関わったために開かれた道でした。五日市の木炭や周辺の村の農産物を江戸に運ぶ道でもありました。



## 久右衛門橋

上は1932(昭和7)年



## 小川橋

上は1920(大正9)年



## 府中街道

上は1949(昭和24)年

[写真資料について](#)

こだいら  
デジタルアーカイブ



このページに掲載しているモノクロ写真は、「こだいらデジタルアーカイブ」の「郷土写真-飯山達雄氏撮影写真」に保存されている資料です。アーカイブでは、『小平市史』および小平市に関する写真資料、平櫛田中彫刻作品3Dなどをデジタル化して公開しています。学習や調査・研究に活用が可能です。

青梅街道  
小川エリア

雑木林

畑

たから道

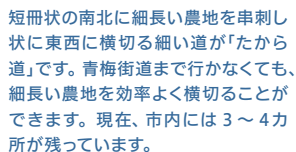
竹やぶ

用水路

家屋敷

垣根

小平の家の敷地には、街道沿いの垣根と家屋数が並び、風よけにケヤキやカナンが植えられました。その後には、生活に使う飲み水や野菜を洗う用水路、竹やぶ、そして「たら道」を挟んだ先には畑が続き、雑木林の奥には玉川上水や野火止用水が流れていました。雑木林の落ち葉を堆肥にしたり、枝はかまどや風呂の薪にしたり、カゴなどの道具に竹を使ったり、江戸時代では、このような自然を活かした暮らしを営んでいました。



ここは、小川村で最初に寺子屋ができた場所です。立川家三代にわたって継承されました。



**B** 寺子屋公園

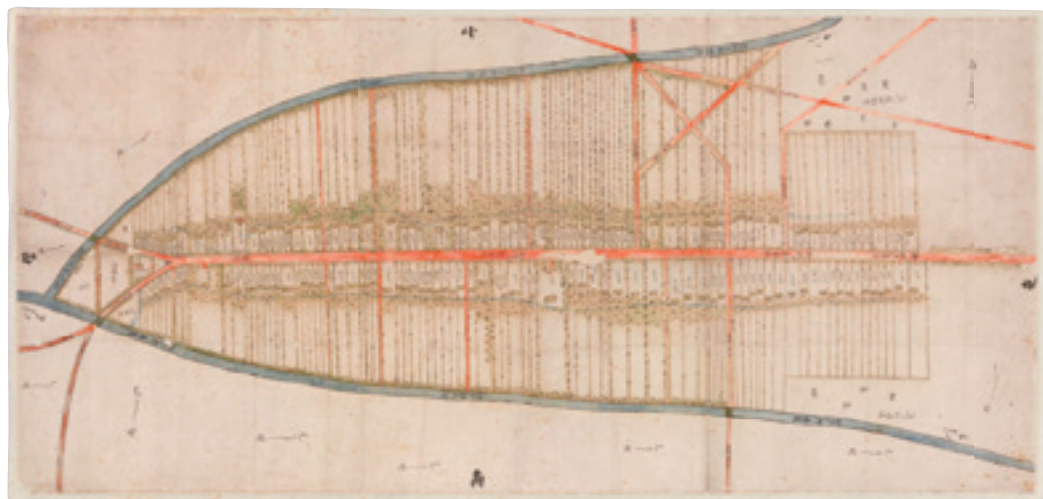


## A 馬継ぎ場跡



江戸時代、青梅街道の箱根ヶ崎～田無間(約 20km)の  
ほぼ中間のこの地に、馬を乗り換えるための馬継ぎ場  
ができました。府中街道交差点から平安院までの間の  
道幅が広がっているのはその跡です。





小野さんの高垣



竹内家の大ケヤキ



小平神明宮のイチヨウ

### 小平の名木

市内には、樹齢350年以上といわれる市の天然記念物「竹内家の大ケヤキ」をはじめ、市政50周年を記念して選定された「こだいら名木百選」などの立派な樹木がたくさんあります。

### 小川村の短冊型地割図

延宝2(1674)年頃短冊状に区割りされた土地が青梅街道をはさんで対称に並んでいることがわかります。

[出典:こだいらデジタルアーカイブ]



『こだいら  
名木百選』



小平神明宮



日枝神社



チョコレート「ブラックサンダー」が有名な有楽製菓の直営店「YURAKU CHOCOLATE SHOP」では、限定商品も販売されています。  
営業時間：9:00～17:00  
定休日：年末年始、お盆期間

こうしてできた

# 七つの村

——水がなく荒涼としたこの地に、  
玉川上水、野火止用水ができたあかつきには、  
みなが住める村をつくらうぞ！

なぬし 小川九郎兵衛

小平のまちを地図で見ると、江戸時代の新田開発当時の村のカタチが、いまだに残っていることがわかります。その所どころにある寺社は、村の成り立ちにとても重要な役割を担いました。小平が生まれた時代にさかのぼり、村と寺社と開発に尽力した人物を見ていきましょう。

## 九郎兵衛の服装について

九郎兵衛は名主でしたが、武士と同じように帯刀を許されていたと伝わっています。服装は、自然が豊かな小平をイメージし緑を基調色にしました。小平の開祖なので、市の木（ケヤキ）、花（ツツジ）、鳥（コゲラ）から色を抽出して使用しています。髪にはコゲラの羽を2枚飾りました。

## 人物の姿について

人物の姿はイメージです。小平の歴史を知ってもらうため、開拓に携わった人物をキャラクター化しました。作画の際には、各種の資料を参考していますが、顔はもちろん、髪型や帯刀、服装、年齢など正確なものではありません。この絵をきっかけに想像を膨らませていただけたら幸いです。



小川九郎兵衛(おがわ くろべえ)  
(1622年 - 1669年)

小川九郎兵衛は武蔵村山の岸村の有力者。祖先は後北条氏の家臣で、後北条氏滅亡後、村山郷に土着した郷士です。

現在でいう起業家のような人。  
開発願申請当時 34 歳。



# 小平黎明期

## 小川村

(開発当時の村名は「小川新田」)



一ノ宮神社

野火止用水開通の年に建立。  
経緯は本文参照。

**小平開拓の祖、小川九郎兵衛**  
江戸幕府が開かれ、漆喰<sup>しっくい</sup>の原料である石灰輸送の往来が増える青梅街道。箱根ヶ崎から田無までの5里(約20キロメートル)間に宿場町がなかった当時、「逃げ水の里」と呼ばれるほど水がなく荒野だった小平あたりは、行き倒れて死ぬ者がいるほど往来する人馬にとって最大の難所でした。玉川上水と野火止用水ができることを見込み、不住の土地であったこの地に伝馬の中継宿をつくり、新田を開発して、小平の基礎となる小川村をつくったのが武蔵村山岸村の有力者・小川九郎兵衛でした。



日枝神社(山王社)

江戸の神社権威(麴町の山王日枝神社)とのつながりがあります。山王社の山口大和守求馬が九郎兵衛と協力して村の鎮守として建立。神主は山口家。当初は現在の地より100mほど西にありました。



小川神明宮

村の開拓にあたり、九郎兵衛が自身の出身地である岸村の神明ヶ丘の山頂に鎮座する産土神【西多摩郡殿ヶ谷村(いまの瑞穂町)鎮座の延喜式内社(平安時代以前からの古社)阿豆佐味天神社の摂社】を分祠遷座しました。1661年頃、九郎兵衛が宮崎主馬と名主、総農民の協力を得て建立し、郷土の守護神(神明さま)として祀ったものです。当初は375mほど離れた野火止用水ぎわにありましたが、1681年頃、村人が参拝しやすいように現在の地へ移されました。



小川村開祖碑

鎮守の神をまつる

## 神社と村

一ノ宮神社と野火止用水

玉川上水完成までもない頃、「水喰土<sup>みずくいど</sup>」とよばれた関東ローム層のために、野火止用水に水がなかなか流れませんでした。小川村開拓者のひとり宮崎主馬がほこらを建てて祈願したところ、大雨が降り出し一夜にして用水が流れたことから、一ノ宮神社の社号を賜ったと言われています。一ノ宮神社は、野火止用水開通の1655年に建立され、小平で最初に建てられた神社です。

村の鎮守、山王社と神明宮

山王社<sup>さんんのうしや</sup>(現・日枝神社<sup>ひえじしんじや</sup>)は、江戸の神社権威のひとつ、麴町の山王社とつながりのある神社です。また小平神明宮<sup>しんめいみやう</sup>は、小川村の総鎮守を得て建てられ、京都の神社権威の吉田家とつながりのある宮崎家が神主になりました。当時の神主はさまざまな村の人がなることが多く世襲が一般的でした。小川用水は山王社付近で分水し、北堀は神明宮を、南堀は小川寺を通じて集落へ流れていました。

村人を管理する寺と村

## 寺院と村

### 入村時のきまりと寺の役割

当時の寺院には、仏事のほか檀家制度によって村人を管理する役割（寺請制度）があり、新田開発にとって寺院の開山は必要不可欠なものでした。小川村に寺ができるまでは、小川家が入村者の管理にあたっていました。他村から小川村へ入村するにあたって作成された証明書「入村請書」には、五点の確約事項がありました。

また、僧侶には、村内における調停者の役割がありました。原則、末寺の僧侶は本寺などで修行した人物が担うため、僧侶は村の外出身者でした。

### 入村請書

- 一、入村者が小川村に入村する状況を示し、入村者の身元を証人らが保証していること。
- 二、入村者は問題がない者であること。
- 三、入村者の屋敷については小川家の指示に従うこと。
- 四、入村者が御伝馬を勤めるために馬を持つこと。
- 五、入村者がキリシタンでないこと。

### 小川村の2つの寺、小川寺と妙法寺

小川寺は小川村で最初に建てられた寺院です。青梅街道を挟んで向かい側に神明宮があります。さらに青梅街道を東に進んだところに、かつては妙法寺みょうほうじがありました。開拓当初、小川寺と妙法寺は小川家を境に西側は小川寺、東側は妙法寺と檀家を分けていました。

## 新田開発期

(1716～1745年)

### 享保の改革で、再びはじまる新田開発

八代將軍徳川吉宗は、幕府の財政再建のための増収策として行なった「享保の改革」で、再び新田開発を奨励しはじめました。小平市内で小川村の後にできた6村は、小川新田・鈴木新田・野中新田のよしんと右衛門組・野中新田善左衛門組ぜんざえもんぐみ・大沼田新田おほぬまたしん・廻り田新田めぐりでんです。開発にともない、各村には寺や神社が建てられていきました。



小川寺(しょうせんじ)

村の開拓がはじまった1656年頃、市ヶ谷にある月桂寺の住職・雪山碩林大禪師を招き開山したと伝わっています。1800年代の2度にわたる火災により、寺宝や文書などすべて焼失してしまいました。境内には開祖小川九郎兵衛の墓塔や梵鐘ぼんしゅ（ぼんしゅう）などがあります。



梵鐘



小川九郎兵衛の墓塔



妙法寺(みょうほうじ)(国分寺市)

開拓当初は、現在の小平第一小学校の地にあり、小川家から東の農民が檀家でしたが、住職が亡くなった折に檀家を小川寺へ移しました。しかし新住職が就いても檀家が戻らず徐々に衰退、1909年に現在の地(国分寺市)へ移転しました。





熊野宮(くまのぐう)

小川新田の鎮守。1704年に岸村の阿豆佐味天神社の摂社を一本榎に遷祀したことがはじまりと伝わっています(小川新田開発後に遷祀したとするのが妥当とも言われています)。別名を一本榎神社とも言い、現在の榎はもとの大樹の孫木と言われています。



新田開発の境界  
「一本榎」

熊野宮の一本榎は、群を抜くほどの大樹だったため、地名らしきものがなかった当時は、「武蔵野の一本榎」と呼ばれ、神社の遷祀前から往来する旅人の目標(めじるし)になっていたそうです。弥市の願い出により、新田開発が再びはじまったことで、当初の開発範囲の境界だった一本榎の地に熊野宮が遷宮されました。

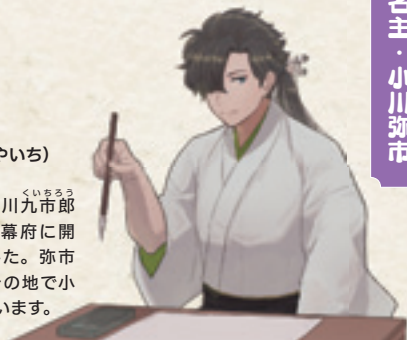


平安院(へいあんいん)

1739年、小川新田(仲町)に移住した農民の菩提寺として建立されたもの。名主小川弥市が開基。村人が増えたころ、弥市が小川寺6代の住職、省宗碩要禅師と図り、この地に寺院の建立しました。

## 小川新田

名主・小川弥市



小川弥市(おがわ やいち)

小川家の子孫。  
小川政右衛門、小川九市郎と弥一郎に続き、幕府に開発願いを出しました。弥市の子孫は現在もその地で小川石材店を営んでいます。

小川村開発の後、当初に予定されていた新田開発は長らく止まったままでした。当時の幕府が既存の田畑を効率的に活用する政策をとり、急速な新田開発をおさえ、小川家の再三にわたる新田開発の願いを受け入れなかったのです。しかし、享保の改革での幕府立て直しの一環で、再び新田開発を奨励しはじめたことを知った弥市は、すぐさま開発許可を幕府に嘆願し、小川家の歴代当主たちの宿願ともいえる小川村の開発事業を再開させたのです。

年寄・當麻伝兵衛



泉蔵院(せんぞういん)

天台宗の寺院。今寺村(現青梅市今寺)の報恩寺の塔頭であった泉蔵院を引寺。運承法印を勧請して開祖、弥左衛門と伝兵衛が尽力し開基しました。



大沼田稲荷社

大沼田新田の鎮守として、青梅市今寺の稲荷社を勧請して泉蔵院内に創建し、後に当地へ遷座しました。

## 大沼田新田

名主・當麻弥左衛門



一方、大沼田新田の開発は、おんた村(現東村山市)の名主當麻弥左衛門が主導し、年寄當麻伝兵衛は、泉蔵院と稲荷社の建設を行いました。血縁関係にあり、商いを生業とする二つの家は土地も財もあり、両家による村運営が長く続きました。

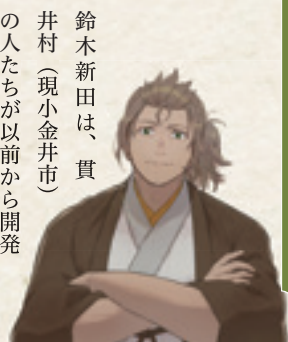


名主・鈴木利左衛門春昌はるまさ（息子）



# 鈴木新田

名主・鈴木利左衛門重広りざえもんしげひろ（父）



鈴木新田は、貫井村（現小金井市）の人たちが以前から開発願いを出していましたが、なかなか叶いませんでした。ようやく開発が認められた時、資金が足りず、開発場の三分の一を野中善左衛門へ渡すという条件で、善左衛門から出資の約束をとりつけて開拓できることになりました。苦勞し奔走した中心人物が、鈴木利左衛門親子でした。



宝寿院（ほうじゅいん）

当地鈴木新田を開拓した鈴木利左衛門春昌が、府中妙光院の塔頭を引寺、父鈴木利左衛門重広を開基、宥清上人を勧請して開山しました。



海岸寺（かいがんじ）

海岸寺を当地へ引寺した。山門と小金井桜樹碑で知られています。



鈴木稲荷神社

鈴木新田開発に際し、貫井に鎮座していた稲荷神社を勧請して創建。鈴木新田小名下の鎮守でした。



上鈴木稲荷神社

## めぐ 廻り田新田

代官・川崎平右衛門へいえもん



回田氷川神社（めぐりたひかわ）

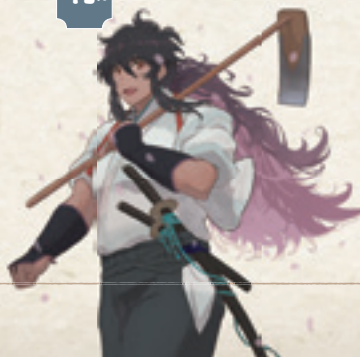
廻り田新田の鎮守。新田開発に際し、宅部氷川神社を勧請して創建。修験三光院が管理しました。

廻り田新田は村になるまで、廻り田村（現東村山市）の秣場まぐさばという家屋の屋根や家畜の餌を刈る場所でした。そこに、代官の川崎平右衛門が住みつくよう申し付けたため、村になった経緯があります。廻り田村出身の斉藤太郎兵衛は、この地を秣場にするために奔走した人物で、秣場を獲得する際にも金策に動くなど、村になるまで尽力した百姓代です。

百姓代・斉藤太郎兵衛

川崎平右衛門

府中の人。名主から代官になりました。武蔵野新田全体の安定化や新田村々の救済・復興の立役者。人が集まる地にすべく、桜の植樹をし、小金井桜を有名にするなど、人のために尽くし民衆に慕われました。





武蔵野神社

北野中新田の開発が一段落したとき、上谷保村から毘沙門天を村の鎮守として遷宮しました。



延命寺(えんめいじ)

野中新田開発に際して入村した者たちの願いにより、野中善左衛門が開基となり、中藤村(現武蔵村山市中藤)の真福寺の塔頭を当地へ引寺しました。

通野中新田



出資

## 野中新田

野中新田は非常に広大な面積を持つ分散した新田であったため、北野中・通野中・南野中の独立した3組に分割され、各組の名主には与右衛門、善左衛門、六左衛門がなりました。円成院は与組で、寺の墓地から西側が善組で善左衛門が延命寺の開基となりました。新田は昭和37年に市制施行まで、善左衛門組、与右衛門組、六左衛門組(現国分寺市)に分かれていました。

野中善左衛門

上総国防阿郡万国村(現千葉県木更津市)出身で鈴木新田・野中新田に出資した富豪。現在でいう投資家。

出資

北野中新田



与右衛門組名主・野中与右衛門

六左衛門組 野中六左衛門

南野中新田

(国分寺市)



和尙 矢沢大堅



大堅の墓塔 円成院(えんじょういん)

上谷保村にある円成院を、大堅がこの地に引寺し、師僧実山道伝を勧請して開山を仰ぎ創建した北野中新田の寺院です。大堅の墓塔がいまも残っています。

矢沢大堅

上谷保村(現国立市)出身の矢沢大堅は、1722年に上谷保村の百姓らと共に幕府に新田開発を願い出ます。

そのとき、新田開発の権利金である買加金(みようが)を上納できる者がいなかったため、鈴木新田の開発に出資していた野中善左衛門から出資を得て、1724年に開拓をはじめます。

大堅はこの年に上谷保村からこの地へ引越し、荒野に最初の草庵を構え、移りくる農民のリーダーとなり、自らも開拓の楫を振るいました。農民も増え開拓に見通しのついていた1727年、上谷保村にある円成院をこの地に引寺しました。



鳳林院(ほうりんいん) (国分寺市)

上谷保にあった円成院境内に大堅が鳳林院を創建。その後、南野中新田へ引寺しました。



旧石器時代から現代まで  
バラエティ豊かに楽しめる

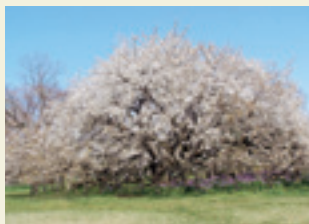
## 小金井街道・新小金井街道

## 花小金井・小金井公園エリア

このエリアにある鈴木遺跡は、石神井川の源流部に営まれ、日本の後期旧石器時代の代表的な遺跡として有名で、国の史跡に指定されました。また、広大な小金井公園や江戸東京たてもの園のほか、海岸寺山門などの史跡が見応えのあるエリアです。



### A 都立小金井公園



春のお花見で有名な、都立公園では最大級の公園。桜の園と雑木林、草原が広がる園内には、テニスコート、サイクリングコース、バーベキュー広場や大型遊具などが人気を集めています。

### B 江戸東京たてもの園



江戸から昭和初期までの歴史的建物を移築した野外博物館。年間をとおして企画展やイベントが行われています。

開園時間：9時30分～17時30分(4月～9月)  
9時30分～16時30分(10月～3月)  
休園日：毎週月曜日(祝日の場合は次の翌日)  
年末年始  
入料：一般400円、65歳以上の方200円ほか





**C 海岸寺**

五日市街道の喧騒から一変、鎌倉時代の慎ましい雰囲気を残す海岸寺。総ケヤキ造りで茅葺き屋根がめずらしい山門は、天明3（1783）年につくられたと言われています。境内には、江戸時代から名所として親しまれた、玉川上水沿いの小金井桜の由来を伝える「小金井桜樹碑」があり、山門と同様に小平市の指定有形文化財となっています。



小金井市教育委員会提供



1974年の鈴木小学校建設工事の際に発見された、後期旧石器時代の遺物が展示されています。2021年に国の史跡に指定されました。

開館時間：日・水・土曜日、祝日・休日  
10時00分～16時00分  
休園日：月・火・木・金曜日  
年末年始  
入館料：無料



宝寿院  
← P.  
30

鈴木用水(北)

鈴木街道

鈴木用水(南)

田無用水

## 鈴木遺跡



鈴木稻荷神社  
← P. 30

鈴木遺跡資料館

回田氷川神社  
← P. 30



新小金井街道

玉川上水

茜屋橋

あかしあ通り

文化学園大学 ← P. 36

喜平橋

五日市街道  
砂川用水

砂川用水

旧一橋大学駅  
ロータリー跡



旧一橋大学駅ロータリー跡

一橋学園駅

小平ぷらいど



# ミュージアム

小平には、市が運営する博物館や資料館のほか、企業ミュージアムから大学ミュージアムまで、たくさんミュージアムがあります。そのほとんどが無料なので、気軽に何度でも行けるとが魅力です。ミュージアムでは、常設展のほか期間限定の企画展やイベント、ギャラリーツアーやワークショップなどが行われています。ぜひホームページをご確認のうえお出かけください。



開館日: 10時～17時  
休館日: 月曜、年末年始（月曜が祝日および振替休日の場合は翌日が休館）  
入館料: 無料

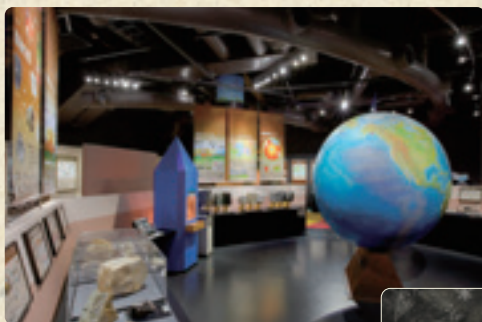


ガスミュージアム

明治時代から私たちの暮らしと共に歩んできた「ガスの歴史」を学べる企業博物館。明治時代に使われたガス灯や、3種類のガス灯の灯りを実演紹介する「ガス灯館」。そして100年以上前からのガス器具のあゆみや、ガス製造の変遷を紹介する「くらし館」の、二棟のレンガ造りの建物がご覧頂けます。収蔵品の錦絵を中心とした企画展も折々に開催します。夕刻の庭園では国内外のガス灯17基が織りなす灯りと赤レンガの建物が相まって、ロマンチックな雰囲気包まれます。



小平市が、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市と共同で運営している体験型のミュージアム。さまざまな体験ができる常設展示や企画展のほか、楽しみながら科学を学べるよう観察・実験・工作のプログラムが盛りだくさん。世界最大級の大きさを誇るドーム内では、生の解説を聞きながら、世界最多の恒星を投影できるプラネタリウムが楽しめます。家族みんなで一日中過ごせる科学館です。



開館日: 9時30分～17時（入館は16時まで）  
休館日: 月曜（月曜が祝日の場合は、その翌日休館）、祝日の翌日、年末年始、機器整備等の休館あり、春・夏・冬休み期間中は月曜も開館  
入館料: 大人520円・小人（4歳～高校生）210円  
※プラネタリウム観覧料は別料金  
※当日チケットで再入館可  
※年間フリーパス市民割引あり

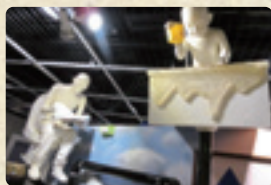
多摩八都科学館  
※市外（西東京市）



©GOTO

世界一に認定されたプラネタリウム





小平市ふれあい下水道館

下水道に関する資料や役割、歴史などが映像とパネルで紹介されている市営博物館。工事中に掘り出した地下25mまで柱状に復元した地層のほか、日本で唯一誰でも自由に入ることができる本物の下水道管の見学体験は貴重です。



開館日: 10時～16時

休館日: 月曜(祝日の場合はその翌日)、年末年始(12月27日～1月5日まで)

入館料: 無料



Bridgestone Innovation Gallery



開館日: 10時～16時(最終入館15時30分まで)

休館日: 日曜・祝日、年末年始  
入場料: 無料



2020年11月にリニューアルオープンした「ブリヂストン イノベーションギャラリー」は、ブリヂストンの歩みやDNA、事業活動、未来に向けた活動を紹介するなど、ブリヂストンのイノベーションを体験できる企業博物館です。世界最大級の鉱山用タイヤやモノレール・地下鉄用タイヤなど、多種多様なタイヤを実物展示しており、見て触れて頂けます。さまざまな企画展や子ども向けワークショップも開催予定。



撮影: 白汚 零



武蔵野美術大学美術館

約3万点のポスターや、約400点の近代椅子など、4万点をこえる収蔵品を誇る大学美術館。教育・研究成果を反映させた、さまざまな企画展や卒業制作優秀作品展は、美術やデザインの専門家からの注目を浴びています。展示作品もさることながら、ぜひ美大のキャンパスの空気を味わってください。



開館日: 10時～18時/土曜・特別開館日10時～17時

休館日: 日曜・祝日、展示替期間、入構禁止期間

入館料: 無料



東京都薬用植物園

都立の薬用植物園。国内外の貴重な薬草、草木など約1,600種を栽培しています。プレートに書かれた名前や分類のほか、効能・毒性・薬用部位などの情報を読みながら観覧するとより楽しめます。

開園日: 9時～16時30分(4月～9月)/9時～16時(10月～3月)

休園日: 月曜(月曜が祝日の場合は、その翌日が休園日)、年末年始(12月29日～1月3日まで)、4月の第3月曜から5月の最終月曜まで臨時開園

入園料: 無料



ミュージアムの開館日時や催しについては、あらかじめ各ミュージアムのホームページなどをご確認ください。



# 学園都市

大正末期、小平に学園都市をつくらうという構想がもちあがり、昭和のはじめには現在の津田塾大学、一橋大学小平国際キャンパスが移転。戦後も、武蔵野美術大学、白梅学園短期大学、嘉悦女子短期大学（現・嘉悦大学）、文化女子大学（現・文化学園大学）と大学の進出が相次ぎ、多くの専門学校もできました。大学の最寄り駅や通学路などは若者でにぎわい、学生による地域活動※も盛んに行われています。

※「小平市大学連携協議会こだいらブルーベリーリーグ」と呼ばれる活動では、行政と大学、また大学同士が連携して地域活動を行い、発表会などを開催しています。

## 嘉悦大学



日本ではじめて女子の商業学校をつくった嘉悦孝を学園創立者とし、100余年に渡る同学園の実学教育の伝統を継承する大学。学生による小平コミュニティクチャーのラッピングデザインなど、地域に根ざした活動を行っています。

## 白梅学園大学・白梅学園短期大学



ヒューマンズムの精神を理念に、保育教育に力を入れている大学。障害理解啓発や発達支援などの学生ボランティアをはじめ、市と連携して「子ども」をとりまく保育・教育・心理・福祉に関する支援活動に取り組んでいます。

## 津田塾大学

小平キャンパス



「女性の地位向上」を目指し、津田梅子が創立した女子大学。その建学の精神は120年以上にわたり受け継がれ、さまざまな分野で活躍する女性を輩出しています。2024年発行の新五千円券には津田梅子の肖像が選定されました。

## 一橋大学

小平国際キャンパス



社会科学の総合大学として学界をリードしてきた大学で、メインキャンパスは国立にあります。小平には関東大震災を機に1933年に移転してきました。現在は日本人学生と留学生が混住する国際学生宿舎などがあります。

## 文化学園大学

小平国際学生舎館



ファッションの領域をはじめ、デザイン、インテリア、観光の分野にも教育の裾野を広げる大学。メインキャンパスは新宿新都心にあり、小平にある施設は現在、世界中から集まる学生のための寮となっています。

## 武蔵野美術大学

鷹の台キャンパス



自由な校風と国内屈指の造形教育で知られる美術大学。市内には、学生や教員の野外彫刻が展示されたり、市内各所でのワークショップやイベントなどが行われたり、地域交流も盛んです。毎年秋に開催される「芸術祭」が有名です。



# ムサビの 「芸祭」に行こう！



## 芸術祭（通称芸祭）

武蔵野美術大学（通称ムサビ）の名物、秋の学園祭は「芸祭」と呼ばれ、毎年キャンパスは市内外から訪れる人で溢れかえります。学生の自主的な企画・運営により、その時代にあったテーマで開催。美大生が腕によりをかけた作品を売る店や展示、ファッションショーやダンス、パレードなどの企画が盛りだくさんです。

## オープンキャンパス

各大学では、受験生を対象とした「オープンキャンパス」が開催されます。大学によって志向や催しはさまざまです。



嘉悦大学



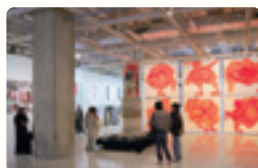
武蔵野美術大学



白梅学園大学・白梅学園短期大学

## 卒業・修了制作展

武蔵野美術大学では、卒業・修了研究発表をキャンパス全体を使った展覧会として行っています。



武蔵野美術大学

キャンパスに入構の際は、大学のルールを守ってください。キャンパスの公開日や催しについては、あらかじめ大学ホームページなどをご確認ください。

市内の大学に通う学生さんが、ガイドツアーを体験！

こだいら観光まちづくり協会主催

# ガイドツアー



小平神明宮

## 会話が基本！ ガイドツアーの醍醐味

小平まち巡りボランティアガイドさんと一緒に歩くと、まちの風景が一変！見ただけではわからない時代背景やまちに秘められた物語がどんどん溢れて出てきます。「参加者さんと何気ない雑談をしながら、その人の趣味嗜好を探って、話す内容を変えたりもするんです」と誇らしげに話すガイドさん。はじめは緊張気味だった学生さんも、次第に会話が弾んできて、みんな楽しそう！こうした特別な時間が、ガイドツアーの魅力です。



### 案内してくれた ガイドさん

(右) 藤 美徳さん  
ボランティアガイド。  
おすすめスポットは、神明宮と熊野宮  
(パワースポット!)、小川寺と泉蔵院  
などの寺社。

(左) 菊地いづみ  
こだいら観光まちづくり協会職員。  
おすすめスポットは、玉川上水と海岸  
寺の立派な山門。

こだいら観光まちづくり協会が主催するツアーのガイドは、協会職員とボランティア。複数回の講習・研修・試験に合格すると、晴れてガイドになることができます。その後も学び続け、内容に厚みを加え続けています。

まち巡りガイドって  
どんな人？





## 小平の歴史に触れる 3箇所をめぐるツアー

当時は、きまりとして  
寺の檀家にやらなきゃ  
いけなかったし、  
村民の管理を  
寺が担ってたんだ。  
信仰の対象というより、  
役所のようなものだよね。

昔の人は  
信心深いんだと  
思い込んでいたけど、  
理由を聞くと  
今とそれほど  
変わらないのかも…

神社参拝では、  
まず二礼して  
コチラの祝詞を唱えてから  
二礼一拍手一礼すると  
良いですね。



小平神明宮

小川寺



旧小川家住宅玄関棟



藁葺屋根の  
分厚さに  
びっくり！

藁や茅だから  
分厚くしないと  
水が漏っちゃうん  
だよな。

ろうそくを使うのは  
江戸の町民でもごく一部。  
昔は日とともに起き、  
日が暮れたら寝るのが  
あたり前だったんだよ。

電気がないから、  
夕方でもまっ暗で  
驚きました！

小川家の玄関が  
立派でしたね。  
位の高い人の入口が  
分けられていることに  
一番驚きました。

小平ふるさと村



ツアーに参加してくれた  
学生さん

(右) 佐藤優花さん  
(左) 三浦菜々子さん  
武蔵野美術大学 基礎デザイ  
ン学科に在籍。大学の課題で、  
小平の窪地のダイダラボッチの  
民話を手がかりに作品を制  
作中。



小平ふるさと村



小平で最も高低差が  
ある窪は  
この馬の背です



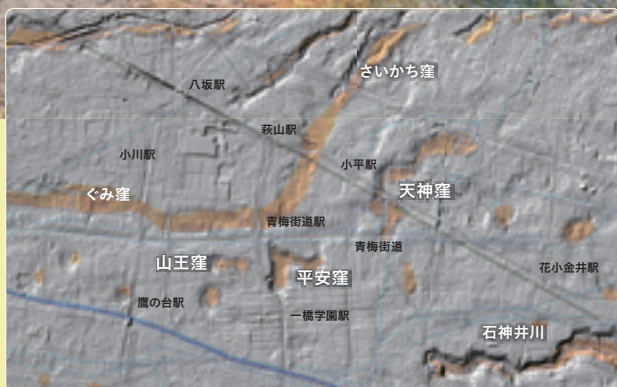
## 実は<sup>たい</sup>平らじゃないって本当？ 小平の窪地ものがたり

石川純にかかれば、まちなかの坂道も観光スポットに！  
彼がこだわる「窪地」巡りに同行しました！

こだいら観光まちづくり協会  
石川純と巡るディープスポット！



1949年(昭和24)年、平安窪の出水の様子  
[こだいらデジタルアーカイブ / 飯山達雄氏写真より]



[陰影図：地理院地図を加工して作成]

窪地と言え「だいだらぼっち」伝説  
「だいだらぼっち」は、日本各地にさまざまな伝承が残る民話です。天神窪、平安窪、山王窪などの点々と続く小平の窪地は、「雲をつきぬけるほどの大男が富士山をこしらえに行くときにつけた足跡だ」との言い伝えが残っています。道路を舗装・整備した昭和の前、窪地の深さは1〜5メートルほどもあり、坂は今よりも急勾配でした。台風や長雨が続き、窪地には地面にしみ込んだ水が湧いて、1、2か月は水が引かず、大きな水たまりになりました。平安窪に100メートル四方もの

小平で一番の高低差！「馬の背」  
この辺りは石神井川が流れた谷の跡が窪地になっています。そこに水道管を通すために土手をつくったのが馬の背です。水道管は西から東へ向かって少しずつ下っていきませんが、一定の高さを保ちながら続いています。小平駅あたりは高低差がないのに、ここでは5メートルもの差があり、小平でこれだけ高低差のあるところはほかにありません。



## 山王窪

小さいから凹みを実感！

窪地の両端を  
一望するにはここ



小さめの山王窪は、道の中に立つと南北両側の坂が一望でき、窪地の真ん中にいることを実感できます。写真は立った位置からそれぞれ南北を見た景色。

窪がつくる美しい景色！  
広大な窪地のなかの  
小さな公園



あじさい公園の南側には、水面よりも低い天神窪に用水路を通すため、江戸時代に土を盛ってつくられた「築樋」があります。そのため、南側の公園の出口は小さく急な坂になっています。

狭山・境緑道の南側にあるあじさい公園は、広い天神窪の一部です。用水路の築樋と緑道の土手に挟まれたため、公園が掘られたように見えます。

平坦な道の先に  
突然現れる下り坂！

## 平安窪

小平の真ん中にある平安窪。写真は「小平市役所南」交差点を東（窪地側）から見た景色です。鷹の街道もここで一旦途切れています。



ここでは真ん中の凹みが一望できます。また短冊状の農地も見られます。



## 天神窪（あじさい公園）

大きな水たまりができた時には、小舟を使って往来したこともあったそうです。

小平の窪地は1級スリパチ！しかも自然

東京の地形と歴史を観察し記録する「東京スリパチ学会」の等級認定では、「湧水地から流れ出る川は、三方塞ぎで出口（谷口）があるので2級、四方向を丘で囲まれ閉じられた窪地を1級スリパチ」というのだとか。また「人工的にふさがったものは人工スリパチ、自然のものは自然スリパチ」と呼ぶそうで、小平の天神窪、平安窪、山王窪は、どれも1級自然スリパチなんです。

### 取材後記

協会の職員である石川純さんは、「まち巡り」ボランティアガイドさんたちのまとめ役。それぞれの得意分野を熟知していて、ガイドさんとはお互いに尊敬しあい、助けあっている様子が印象的です。以前は中学校の社会科の先生だった石川さんの得意分野は地理です。窪地や水路に詳しく、「築樋」や「伏せ越し」などの工法を、目を輝かせながら紹介してくださいました。ノッているときには親父ギャグが飛びだします。（編集担当・棚橋）

ボランティアガイドさんオススメ  
厳選12コース！

# 小平まち巡り ガイドコース

こだいら観光まちづくり協会では

ボランティアガイドさんによる「まち巡り」を行っています。

コースは全部で17コース（2021年現在）。

小平の歴史や地形、自然文化などに興味のある方はぜひご参加を！



**P** 新田開発に思いを馳せ、  
小平東部の青梅街道を  
巡る

青梅街道駅から東へ歩きながら、  
馬継場跡や開拓当時に建てられ  
た寺社、用水、ふるさと村などを  
巡り、花小金井駅まで歩きます。



**I** 小平霊園から緑と芸術の  
「グリーンロード」を巡る

著名人も眠る小平霊園や東京街  
道にある陣屋門、ふるさと村、あ  
じさい公園、たけのこ公園など、  
彫刻や豊かな自然が楽しめる狭  
山・境緑道を巡ります。



**L** 四季折々の風景が楽しめる  
バラエティコース

眺めのよい馬の背や小金井公  
園、陣屋跡、江戸東京たてもの  
園などを巡るバラエティに富ん  
だコース。春は桜、夏は新緑、秋  
は紅葉が楽しめます。



**H** 小平中部地区の今昔と  
鈴木遺跡

日本一大きな丸ポストやルネ  
こだいらなどの現在の小平と、江  
戸期に建てられた熊野宮、鈴木  
稲荷神社、また旧石器時代の鈴  
木遺跡などをまわるバラエティ  
に富んだコース。



**K** 小平東部地区の今昔と  
鈴木遺跡

本村の後に開拓された新田地域  
を、花小金井駅から玉川上水の  
小金井橋、海岸寺を経て、鈴木  
遺跡のウォーキングコースを歩  
きます。



**G** 西武多摩湖線の変遷を  
巡る

昭和3年の多摩湖鉄道開業時か  
らの消えた駅や移動した駅の痕  
跡を、国分寺駅から小平駅まで  
辿ります。



C



### 小平発祥の歴史に ふれながら青梅街道を行く

青梅街道の両端にみられる南北に細い短冊型地割、用水路、たから道など、開拓当初の姿を訪ねます。

E



### 西武国分寺線に沿って 小川地区の新・旧スポット を巡る

九道の辻、野火止用水、プリチーストーンノベーションギャラリー、たから道、玉川上水など、小平の名所を巡ります。

Q



### 野火止用水を行く

武蔵野の雑木林と、そこを流れる野火止用水を満喫するコースです。

B



### 玉川上水と分水沿いを歩く

小平発祥の地、小川村の歴史に触れながら、玉川上水や野火止用水、小川用水が流れる彫刻の谷緑道などを巡ります。

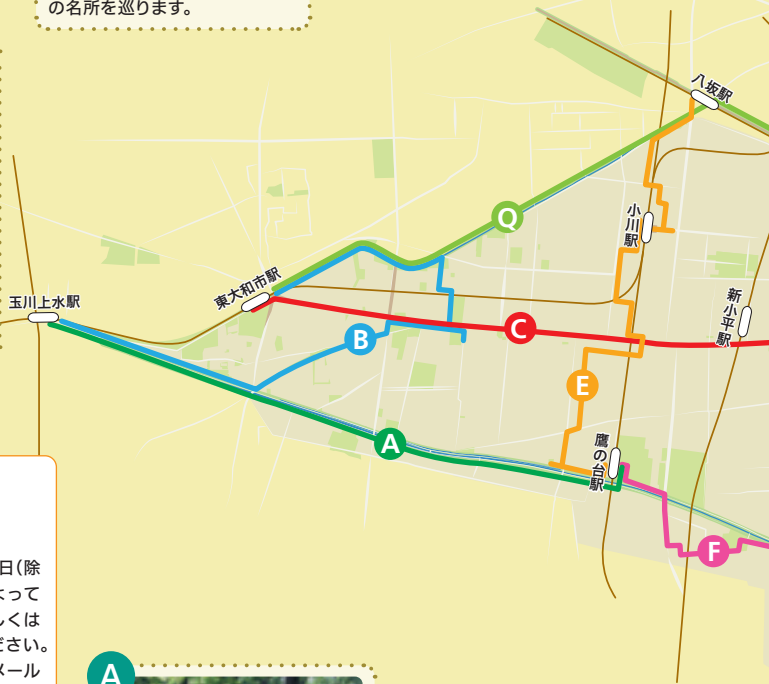
## 小平まち巡り ガイドツアー参加方法

「まち巡り」は、原則毎月第3土曜日(除く8月)に行っています。月によってまわるコースが異なるため、詳しくは協会のホームページでご確認ください。参加希望は、下記の電話番号かメールでお申し込みください。

こだいら観光まちづくり協会  
ホームページ



お問い合わせ / 申し込み  
こだいら観光まちづくり協会  
042-312-3954  
info@kodaira-tourism.com



A



### 自然を満喫。 水と緑の玉川上水を歩く

玉川上水駅から鷹の台駅までの間を自然豊かな玉川上水に沿って歩き、今も残る歴史の痕跡や水に触れられる場所、足湯やオープンガーデンなどをご案内します。

F



### 水と生活。 ミュージアム探訪

自然豊かな玉川上水を満喫しながら、ふれあい下水道館、平柳田中彫刻美術館などを巡ります。

# 小平の イベント・お祭り

小平には、魅力的な四季折々のイベントやお祭りが  
あり、いつ訪れても新しい感動が待っています。  
年間スケジュールをチェックして、遊びに行こう！



小平市民まつり

## 年間スケジュール

小平市  
イベント  
カレンダー



3月

● だるま市（小川寺）

● 丸ポストロゲイニング（市内まち巡り）

● 吹奏楽フェスティバル（ルネこだいら）

4月

● お茶会（平櫛田中彫刻美術館）

● 八雲祭（宵宮祭・神幸祭）（小平神明宮）

5月

● こだいらグリーンフェスティバル（小平市立中央公園）

● バスとタクシーのひろば in 小平（トリヂェストン）

6月

● あじさいまつり（あじさい公園）

● ホタルのタベ（東部公園）

7月

● 花小金井納夏まつり（花小金井町会神輿&サンパフェスティバル）（花小金井駅）

● 陸上自衛隊小平駐屯地納涼祭（陸上自衛隊小平駐屯地）

8月

● 夏詣（熊野宮）

● 小平グリーンロード灯りまつり（小平グリーンロード）

● サマーフェスティバル in こだいら（小平駅南口）

● ナイトミュージアム（平櫛田中彫刻美術館）



サンパ  
フェスティバル



八雲祭



陸上自衛隊小平駐  
屯地納涼祭



## 小平伝統の

# お祭り

小平神明宮「八雲祭」は、毎年4月最後の土曜・日曜の2日間に執り行われます。土曜の夜は暗闇の中で八雲大神様を神輿にお遷しする厳かな神事、日曜には神人一体となって街々を練り歩きます。「灯りまつり」は、小平伝統の文化・祭灯ろうを、市民が持ちより灯します。



鈴木ばやし

鈴木町地区に伝わる郷土芸能で、別名「鈴木流若ばやし」とも言います。江戸時代末期、若者たちが賭博や深酒などで乱れていたため、青年教育の先駆者・深谷定右衛門が若者の健全な娯楽として普及させたことがはじまりです。



小平グリーンロード灯りまつり

9月

- こだいら環境フェスティバル（中央公園・ふれあい下水道館）
- 下水道の日イベント（小平市ふれあい下水道館）

- 例祭（宵宮）・神幸祭（2年に1度の本祭）（熊野宮）

10月

- 小平市民まつり（あかしあ通り）

- 元氣村まつり（小平元氣村おがわ東）

- えんとつフェスティバル（小平・村山・大和衛生組合）

- お茶会（平柳田中彫刻美術館）

- 芸術祭（武蔵野美術大学）

11月

- こだいら国際交流フェスティバル（学園西町地域センター）

- 小平市産業まつり・ご当地グルメコンテスト（小平市福祉会館前）

- 社協福祉バザー（福祉会館・市民広場）

- 津田塾祭（津田塾大学）

12月

- みんなでつくる音楽祭in小平（中央公民館）

- なかまちテラスイルミネーション（なかまちテラス）

1月

- どんど焼（小平神明宮）

- 新春歩け歩けのつどい（市内まち巡り）

2月

- 節分の豆まき（小平ふるさと村）



節分の豆まき



なかまちテラス  
イルミネーション



小平市民まつり



夏詣





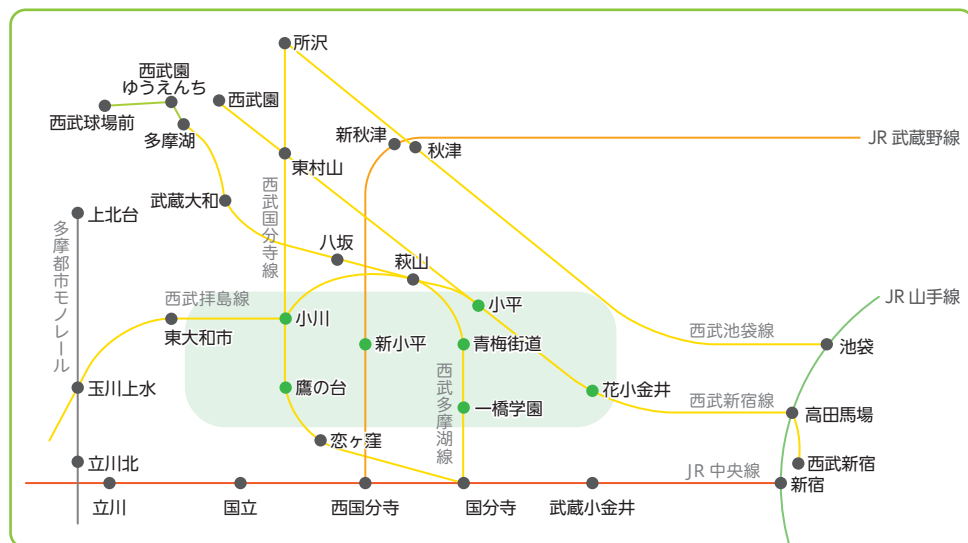
# 小平市のちず



## 施設の連絡先

施設名	住所	問い合わせ	掲載ページ
平櫛田中彫刻美術館	学園西町 1-7-5	042-341-0098	P.10
東京都薬用植物園	中島町 21-1	042-341-0344	P.15、P.35
小平ファーマーズ・マーケット「ムーちゃん広場」	小川町 2-1827	042-348-7244	P.19、P.21
小平ふるさと村	天神町 3-9-1	042-345-8155	P.20、P.22
ガスミュージアム	大沼町 4-31-25	042-342-1715	P.11、P.34
多摩六都科学館	西東京市芝久保町 5-10-64	042-469-6100	P.34
Bridgestone Innovation Gallery	小川東町 3-1-1	042-342-6363	P.34
小平市ふれあい下水道館	上水本町 1-25-31	042-326-7411	P.34
江戸東京たてもの園	小金井市桜町 3-7-1	042-388-3300	P.32
鈴木遺跡資料館	鈴木町 1-487-1	042-323-2233	P.32

## 小平へのアクセス 東京都心から電車で約 30 分！



- 花小金井駅・小平駅 西武新宿線(所沢方面)
- 新小平駅 JR中央線西国分寺駅より JR 武蔵野線にのりかえ(東京・南船橋方面)
- 小川駅・鷹の台駅 JR中央線国分寺駅より西武国分寺線にのりかえ(東村山方面)
- 一橋学園駅・青梅街道駅 JR中央線国分寺駅より西武多摩湖線にのりかえ(萩山方面)



## 一般社団法人こだいら観光まちづくり協会

小平市の「観光まちづくり」を推進し、地域活性化を図るために平成 28 年 6 月 28 日に設立された組織です。

〒187-0043 東京都小平市学園東町 1-16-1

電話：042-312-3954

メール：info@kodaira-tourism.com



# フラッとNAVI 小平にこないか？

最新イベント情報や、小平市内の観光情報が盛りだくさん！

フラッとNAVI 小平

検索



市内の様子や魅力的な情報を発信しています！ぜひフォローして、最新情報をチェックしてください。

こだいら観光まちづくり協会

SNS

Twitter

instagram



## こだいら観光まちづくり協会 公式YouTubeチャンネル

こだいら観光まちづくり協会のYouTubeチャンネルでは、小平の魅力がぎっしり詰まった動画コンテンツを配信中！



### petitina シリーズ

「petitina(プチーナ)」は、小平のキャッチフレーズ「都会から一番近い プチ田舎」をもじったフランス語風の造語。季節ごとの小平市が見せる姿を、素敵に切り出してお送りします。



### めぐりん小平シリーズ

小平のさまざまなスポットを小平市民の皆さまに巡ってもらいました。全6本、さまざまな小平の魅力を知ることができます。



### 360度VR動画シリーズ

小平ふるさと村や、平櫛田中彫刻美術館などを、実際にいるかのように360度見渡すことができるVR動画コンテンツです。

## 参考文献：

「こだいらデジタルアーカイブ」小平市立図書館ホームページ／小平市史編さん委員会『小平市史 地理・考古・民俗編』小平市 2012年、2013年／小平市企画政策部『小平市史別冊図録 近世の開発と村のくらし』小平市 2013年／小平市史概要版作成研究会『小平市史概要版 小平の歴史』小平市 2015年／郷土こだいら編集委員会『郷土こだいら』小平市教育委員会 1967年初版、1978年第7版／『こだいらの史跡めぐり』小平市教育委員会 社会教育部社会教育課 1989年／中学校社会科副読本編集委員会『中学校社会科副読本 私たちの小平』小平市教育委員会 1985年初版、1990年改訂版／小平市ホームページ／武士生活研究会『図録近世武士生活史入門事典』柏書房 1991年／菊地ひと美『江戸衣装図鑑』東京堂出版 2011年

発行年月：2021年3月

発行：一般社団法人こだいら観光まちづくり協会

企画：株式会社アトミ／西中デザイン事務所

編集：棚橋早苗 デザイン：西中 賢

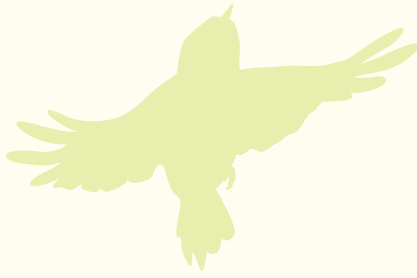
編集補助：稲口俊太、柴田 光

イラスト：菅野 恵

写真：こだフォト部／稲口俊太 他、個別に記載

協力：小平「まち巡り」ボランティアガイド

印刷：株式会社アトミ



一般社団法人

こだいら観光まちづくり協会

ODAIRA Tourism and Town Promotion Association

